

DOWAS NEWS

2022

Vol.25 No.1



第 26 回海洋深層水利用学会全国大会 大会のお知らせ
研究発表企画委員長 清水勝公－ 1

2022 年度定期総会および講演会報告
事務局長 有馬博史－ 5

2022 年度各委員会委員長の交代および留任について
事務局長 有馬博史－ 7



海洋深層水利用学会

第 26 回海洋深層水利用学会全国大会
海洋深層水 2022 大会
大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会研究発表企画委員長
清水 勝公

第 26 回海洋深層水利用学会全国大会は新型コロナウイルス感染拡大を防止する目的から、昨年度と同様に Web 会議システムを利用しての開催とします。

従いまして、視聴に当たりましては各会員が保有するパソコンよりのご参加となります。なお、事前にアクセスコードとパスワードをお知らせしますので、参加申込みは従来通り、DOWAS ホームページ「<http://www.dowas.net/>」の参加申込みフォームよりお願いします。

記

1. 開催日：2022 年 10 月 26 日（水）13：15～17：00

※口頭発表は「発表＋質疑：10 分」としますので、予めご承知おき下さい。

※プログラム内容や開催時間等に変更が想定されます。詳細および最新情報については、随時 DOWAS ホームページに掲載してお知らせしますので、ご確認ください。

2. 参加費：無料

3. 参加及び研究発表申込み方法：

大会への参加者及び研究発表者は参加申込みフォームからの申込みでお願いします。なお、申込み上の注意事項につきましては以下の通りです。

参加申込み：参加を希望される方は、研究発表の有無に関わらず、[参加申込（参加申込みフォーム）]の「【1】2022 大会 参加申込」欄に所定の事項を記入の上、お申込み下さい（従来通り）。

研究発表申込み：一般研究発表を希望される方は、[参加申込（参加申込みフォーム）]の「【2】講演（研究発表）参加申込」欄に、所定の事項を記入の上、お申込み下さい（従来通り）。

締切り期日：

大会参加申込み締切り	2022 年 10 月 20 日
研究発表申込み締切り	2022 年 8 月 31 日
研究発表要旨集原稿提出締切り	2022 年 9 月 15 日【必着】
研究発表動画提出	不要（発表当日までに各自で準備の事）

研究発表方法：Web 会議システムによる発表

特別講演：今年度は「学習推進委員会」よりの特別発表を受付けています（持ち時間は 30 分間程度）。

その他：1 題の講演時間は 10 分（発表＋質疑）×20 題で行う予定です。

※発表題数によって、質疑時間に変更が生じます。大会間近のホームページでご確認ください。

・研究発表者は指定日までに、発表要旨の原稿を作成し、実行委員会事務局・清水までメールでのご提出をお願いします。簡易な査読の上、学会誌原稿として刊行することを考えています。

・発表の持ち時間は 10 分間としています。発表に全ての持ち時間を使用しても良いですし、質疑時間

に当てていただいても良いです。質問のある聴衆者に対しては後日メールでの質疑対応の手当ても計画したいと考えます。

・発表題数は20題程度に限定する予定です。先着順の受付とさせていただきますので、早めに申込み下さい。

・発表者は会員の方に限定させていただきますので、ご注意ください。

・詳細は下記にお問い合わせ下さい。

実行委員会事務局：清水建設（株）エンジニアリング事業本部

新エネルギーエンジニアリング事業部 清水 勝公

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16-1

電話番号 03-3561-4327、FAX 番号 03-3561-8675

メールアドレス katsunori.shimizu@shimz.co.jp

4. 研究発表要旨集原稿の作成と提出要領（従来通り）

・要旨集原稿は、「日本語か英語」のいずれかで執筆の上、A4判1頁とします。

・提出いただいた原稿はそのまま製版に用いますので、出来るだけ読みやすく仕上げたものを電子データ（PDF原稿厳禁）で送付して下さい。誤字・脱字の修正程度の簡単な査読を行います（サンプル参照）。

・用紙はA4判を縦に使い、上下端及び左右端に「25mm」の空白を残して下さい。

・記載順序は演題、演者名、本文の順で、詳細は次の通りです。

第一行：演題→フォントをMSゴシック*12ポイントで記載、中央に配置。

第二行：演者名→フォントをMS明朝*10ポイントで記載、中央に配置。演者は名前の左肩に“○”印を付ける。所属は氏名の後の（ ）内に社名程度を記入。共著の場合、“・”印で連ねる。2行になっても良い。

第三行：ブランク行とする。

第四行以降：要旨本文とする。

・本文は目的、方法、結果等について記載（図表含む）して下さい（下記サンプル例参照）。

・投稿原稿（PDFでの投稿厳禁）は2022年9月15日必着で、実行委員会事務局（清水）までメールでお送り下さい（メール容量が5MBを超える場合は別途大容量用の添付ファイルを送信しますのでメールで申し出てください）。

・過去に、投稿内容が知的財産権に抵触するケースが発生しています。発表側で調整の上、投稿・発表をお願いします。大会実行委員会事務局および学会事務局では一切の責任を取れませんのでご配慮下さい。研究発表データの録画に関しましても同様にご注意くださいようお願いいたします。

・ポスターセッション発表は本年度、ございません。次年度以降の現地開催発表をご検討ください。

5. 研究発表要領

・研究発表は昨年度と同様に、各研究発表者のパソコンより直接的に行え、また、質疑も行えるようにしたいと考えています。

・発表時間は「10分/題」とします。

・発表の言語は日本語あるいは英語をお願いします。

6. 発表動画 VTR の提出について

- ・ 実行委員会事務局への提出は不要です。研究発表に不都合が生じないように準備・作成ください。
- ・ 研究発表内容がパソコン画面となりますので、見易いようご配慮の上、作成して下さい。

7. 全国利用者懇談会

今年度は Web 開催となる関係から、その実施の可否も含めまして、現在検討中です。
後日、ホームページに掲載しますので、各自、ご確認ください。

<大会事務局>

第 26 回海洋深層水利用学会全国大会実行委員会事務局
清水建設(株)エンジニアリング事業本部新エネルギーエンジニアリング事業部
事務局 清水 勝公 宛 (携帯電話 090-4924-3922)
E-mail : katsunori.shimizu@shimz.co.jp

<注意事項>

- 1) 連名の場合は“・”で続け、講演者の左肩に“°”印を付けること。
- 2) (所属) は氏名の後ろにカッコして記載のこと。
- 3) 申し込み後の手続きもありますので、TEL 及び E-mail アドレスは必ず記入してください。

* サンプルは次ページ参照

S0-1. 台湾における海洋深層水の資源利用の現状

○高橋 正征

(台湾国立中山大学海洋科学学院アジア・太平洋海洋研究センター)

1. はじめに

1970年始めの第一次石油ショックを受け、世界の国々は石油に代わるエネルギー資源の探索を始め、その一つとして深層と表層の温度差を利用した海洋温度差発電 (OTEC) が注目された。台湾は熱帯・亜熱帯に位置し、東海岸が急峻で OTEC に適しているので、1989年の暮れにフィンランド、フランス、フランス領ポリネシア、イタリア、日本、オランダ、スウェーデン、台湾、英国、米国の 50 人以上の関係者の支援を得て、国際海洋温度差発電・海洋深層水協会 (IOA, International OTEC/DOWA Association、当初は OTEC だけで後から DOWA が加わった) の NPO 法人がつけられ、1990年春から 2002年冬まで 13年間にわたって 13巻(年 4回で合計 52号)の IOA Newsletter が発行され、同時に、しばしば国際会議を開いて事業化のための啓蒙活動が行なわれた。

これとは別に、1990年代後半から日本で盛んになった海洋深層水の多様な利活用に刺激され、台湾での海洋深層水の関心が高まり、台湾政府は 2004年始めに工業技術研究院東京事務所から日本からの専門家派遣を要請し、たまたま私がそれを受けることになった。同年 5月に訪台し、中央と地方の両政府・研究機関・大学・企業の関係者と会って関心を聞いて、提案をまとめ 10月に再訪して説明した。

2. 台湾の海洋深層水資源利用の現状

私の提案を参考に、2005-07年にかけて花蓮港から七星潭に至る海岸線に沿った所に、南側

の花連港近くには台湾肥料の工場跡地を利用して台湾海洋深層水公司、その北側には光隆生科技公司、さらに北側に東潤水資源公司といった民間企業がそれぞれ 5~10km の間隔を置いて海洋深層水の取水施設と工場や水産生物養殖施設などを建設した。それぞれの会社は、いずれも日本の影響を大きく受け、瓶詰め飲料水、海洋深層水塩、苦汁、化粧水、酒などを生産して国内と一部は中国向けに販売を開始した。東潤ではサケ、マスや海藻類の養殖も始めた。

3. 台湾の海洋深層水資源利用の課題

一方、台湾政府は花蓮から 100 数十 km 南の台東県内に国が支援する海洋深層水の取水・研究・事業利用分水施設の建設を決めた。一つは水産試験場の分室として、台東市の海側で、水深約 610m から日量 4,000 トンの海洋深層水を揚水し、重要な水産資源生物の遺伝子資源保存を主な目的にし、その他農業利用など海洋深層水の様々な資源性の利用を目指している。もう一つは水利署の発注で、台東市の南の知本川南側で、水深約 700m から日量 12,000 トンの海洋深層水を揚水し、冷熱エネルギーを始めとした多様な資源性の多段利用を目指している。二つの施設の工事は 2009年に始まり、2011年には完成の予定であったが、いずれも海洋深層水の取水管 (外径 50cm の硬質ポリエチレン管) の敷設で、特に、浅海部でのトンネル (水産試験場) とトレンチ (水利署) の工事が難航している。

海洋深層水利用学会 2022 年度定期総会および講演会報告

事務局長 有馬博史

【定期総会】

- 日時： 2022 年 5 月 31 日（火） 10:30-11:20
- 場所： オンライン会議による審議（Zoom）
- 配布資料： 海洋深層水利用学会 2022 年度定期総会議案書（全 15 頁）
- 議事：
 1. 2022-2023 年度理事選挙結果
事務局から 2022-2023 年度理事選挙結果が議案書 2 頁に基づき報告された。
 2. 2021 年度事業報告
事務局および各委員会から、2021 年度事業についての報告が議案書 3-8 頁に基づき行われた。
 3. 2021 年度会計報告
事務局から、2021 年度会計収支が議案書 9 頁に基づき説明された。
 4. 2021 年度監査報告
安永会計監査から、監査を 2022 年 3 月 23 日に行い、会の会計は適正に処理されていると認められた旨、議案書 10 頁に基づき報告された。
 5. 2022 年度事業計画
事務局および各委員会から、2022 年度事業計画について議案書 11-13 頁に基づき説明があり、承認された。
 6. 2021 年度予算
事務局から、2022 年度予算案が議案書 14 頁に基づき説明され、原案どおり了承された。
 7. その他
大塚理事より「海洋深層水学習推進委員会」の活動について報告があった。

※総会資料については、海洋深層水利用学会ホームページを参照。

【講演会】

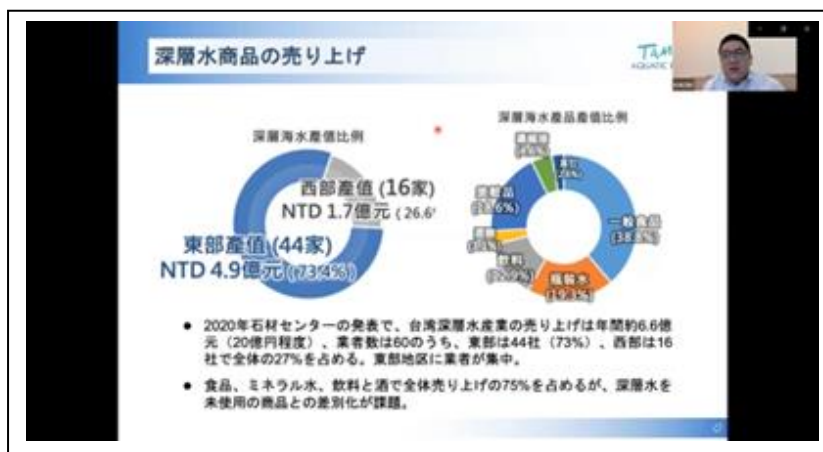
- 日時： 2022 年 5 月 31 日（火） 11:30-12:00
- 場所： オンライン会議システム（Zoom）
- 演題： 「台湾における海洋深層水研究の歩み」
台湾 探索水産株式会社 黄 秉益 氏（2021 年度学会賞）

黄秉益氏は、台湾において海洋深層水の基礎研究をはじめに、幅広い資源利用分野内容で研究・技術開発の精力的な推進や、海洋深層水の資源性や取水問題などと、養殖・健康・薬理分野での研究と技術開発に取り組まれており、それらの取り組みに対して2021年度の学会賞を受賞された。本講演では黄秉益氏のこれまでの成果が詳しく報告された。

【参加状況など】2022年度総会・講演会は、オンラインで33名の参加および28名の委任状により成立した。大塚会長が司会として選出され、2021年度の活動実績、予算の実績および2022年度の活動案、予算案について出席者の皆様に諮り、承認された。総会へご参加頂いた会員の皆様においては、ご多用中にもかかわらず、ご協力頂いたことに深謝申し上げる。



定期総会の様子 (Zoom)



黄氏の講演の様子 (Zoom)

Dowas News 2022 Vol.25 No.1 / 「2022年度定期総会および講演会報告」
 一海洋深層水利用学会 事務局長 有馬博史一
 海洋深層水利用学会

2022年度の各委員会委員長の交代および留任について

事務局長 有馬博史

【委員長・交代】

- 論文誌編集委員長 (現)大内一之 (㈱大内海洋コンサルタント)
⇒ (新)五十嵐康弘 (富山県立大学生物工学研究センター)
- ホームページ編集委員長 (現)尾高義夫 (矢作建設工業株式会社)
⇒ (新)岡村盡 (株式会社ゼネシス)

【委員長・留任】

- ニュースレター編集委員長 今田千秋 (元 東京海洋大学)
- 研究発表企画委員長 清水勝公 (清水建設株式会社)
- 利用促進委員長 山田勝久 (株式会社ディーエイチシー)
- 学会賞受賞審査委員長 池上康之 (佐賀大学海洋エネルギー研究所長)
- 日台韓交流委員長 高橋正征 (高知大学/東京大学・名誉教授)
- 総合戦略検討委員長 池上康之 (佐賀大学海洋エネルギー研究所長)
- 産公学連携推進委員長 深見公雄 (放送大学高知学習センター所長)
- 学習推進委員長 大塚耕司 (大阪公立大学)

以上